

私は 2021 年 9 月から 2022 年 5 月までの 9 カ月間、アイルランドの首都ダブリンに留学しました。ここではその体験を紹介します。この体験記が、今留学に興味を持っている、または行きたいと思っている方の参考になれば幸いです。



〈留学先の様子・学習内容〉

アイルランドはイギリスの横に位置する北海道ほどの小さな国で、豊かな自然やケルト文化、温厚な国民性などが有名です。一方で EU 唯一の英語公用語国であるため、首都ダブリンには世界的大企業のヨーロッパ本社が立ち並ぶなど、非常にインターナショナルな側面もあります。私の留学先であった Dublin City University も多分に漏れず国際的で、在学



生の約 20% が留学生でした。そのため学習面・生活面ともに選択肢やサポートが充実していて、留学生の身でも非常に過ごしやすかったです。

私は Humanities（人文科学部）に所属し、1 セメスターに 5 つほどの授業を受講しました。授業のとり方には制限があり、受講するものの大部分を SALIS と呼ばれる言語運用や異文化学に重点を置いた科目群から、そして残りの 1,2 科目を他の専門的な授業から選びます。学部留学で専門分野をがっつり勉強するのだろうと思っていた私は少しギャップを感じたのですが、それまでアカデミックな英語に触れたことが全くなかったため、結果として学術基礎としての英語と他の専門的な内容を同時に学べたのはとても良かったです。授業・課題両方においてグループワークが課されることが多く、意見やアイディアを絞り出す力、そしてそれらを伝える力が鍛えられました。

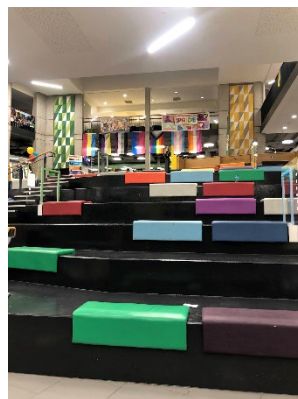
〈留学からの学び〉

この 9 ヶ月から学んだことは計り知れないのですが、ここではその中でも意義が大きかったと感じる ①英語 と ②自分の変化 について書こうと思います。

①英語

9 ヶ月の滞在で私は英語を「克服」することができました。というのも、今の私の英語レベルは、ネイティブはおろか自分が想定していたレベルにも恐らく達してはいませんが、当時自分が言語学習の最後の手段だと思っていた留学を終えたことで、「自分の英語はここまでだ」というある種の良い諦めがついたのです。それによって、英語を使うことに対する抵抗感がぐんと減りました。

留学を終えた今感じるのは、やはり英語は世界を広くしてくれるということです。様々な国の人と話せるのはもちろんですが、例えば映画や音楽をオリジナルの言語で理解できるとか、スマホやPCの使用言語を英語にすることで流れてくるコンテンツが変わるといった日常の些細な部分での恩恵もあります。英語が身近になったことで、日頃からグローバルな視点を手に入れられるようになりました。



②自分の変化

留学では、自分が慣れ親しんだ土地や人間関係、生活を離れ、誰も自分を知らなければ言語も満足に通じないような場所で、一から自分と環境を作り直すことになります。そして長期間異文化の環境に身を置くことで、知らないうちにそれが自分の中にも取り込まれます。



私の場合、変化が最も顕著だったのは個人主義的な考え方でした。以前から人の目を過度に気にしてしまう自分自身を変えたいと思っていたのですが、同調圧力の強い日本でそれを直すのはなかなか難しかったです。その一方、個人主義の色が強いヨーロッパでは、皆あまり人目を気にせず各々の好きなようにやっていて、私も良い意味で刺激や影響を受けました。

今では以前に比べて自分軸でものを考えられるようになったし、また自分がどう見られているかを気にするのが減った分、リラックスして人と接することができます。実際に帰国後、複数の人から「明るくなった」と言われたのは面白かったです。

異文化を、見聞きするだけでなく実際に体験できること、更にそれが自分の内部にまで影響するというのが長期留学の特長だと思います。もしかするとその結果は、自分が留学前に期待していたものとは異なっているかもしれませんが、そういう予想外性もまた醍醐味かと思います。



〈留学を考えている皆さんへのメッセージ〉

留学には経験する人の数だけ違うストーリーや学びがあります。だからこそ今これを読んで留学を考えている方には、是非あなただけの留学体験を見つけてほしいです。そして実際に行った際には、あまりステレオタイプの留学観に囚われず、現地での滞在を思いっきり楽しんでください。そしてそれを色々な人と共有してください。応援しています。



最後にはなりますが、コロナ禍で先行きが読めないなか、私の留学を支えてくださった国際センターの皆さま、その他大学関係者の皆さま、そして家族、友人、パートナーには本当に感謝の気持ちで一杯です。大変お世話になりました。ありがとうございました。

石丸汐見